

図書館振興財団助成事業として、
NPO 法人上田図書館倶楽部が発行しています。
ホームページアドレス
<http://ueda.zuku.jp/>

図書館の「と」と、倶楽部の「く」、それから
コミュニケーションの基本である「話す」を
かけて「とく」という名前を
この広報誌につけました。
2ヶ月にIPPENの発行ですが、よろしくおねがいします。

上田図書館倶楽部だより



1・2月号
&
創刊号

ueda.zuku.jp



明るく夢へつら

上田図書館倶楽部 理事長 米津 福一

あけましておめでとうございます。
本年もよろしく上田図書館倶楽部ご愛顧のほどをお願い
申し上げます。

なかには一体上田図書館倶楽部ってな〜に、と知らない
方もおられるかも知れませんね。上田図書館倶楽部は市民
と協働して図書館づくりを推進し、地域文化の向上に寄与
しよう、という上田ならではの素敵な組織です。

組織などと書く固〜固〜しいイメージを持たれるかも知
れませんが、図書館の巨大頭脳のような力を大いに利用し
活用し、明るい活々とした日常生活につなげよう、前向きな
倶楽部です。その為に学習活動、文化事業など色々な部門
に分かれ活動しています。

あなたも新しい年の幕あけに、気持ちを一寸変えて、私
達と一緒に活動してみませんか。

それぞれの活動が「宝箱」であると気づくでしょう。
是非参加して素晴らしい宝探しの活動を体験しましよ
う。いつの間にか地域の文化や新しい図書館づくりにも寄
与するでしょう。

あなたの入会を心からお待ちいたしております。又会員
のみなさまには今まで同様ご協力の程を切にお願い申し上
げます。

二〇一〇年が良い年になりますように。

楽しく、ためになり、ちよっとオシヤレ。 繭ホール・サロントークを一緒に楽しみましょう！

図書館振興財団から助成金をいただいて、十ほどの助成事業がスタートしております。今回は新企画の繭ホール・サロントークについて、チーフの宮下明彦さんにお話しを伺いました。

記者(以下K) こんにちは。今日は宜しくお願いします。早速ですが、新企画の「繭ホール・サロントーク」はどんなことをするのですか。

宮下さん(以下M) 上田にご縁がある方で、主に産業・経済・健康・医療・文化等の分野で、今とても輝いている方をお招きして、楽しく耳聞をし、知り合いになりましょうという企画です。図書館の学習・交流機能の一つともいえます。

M K いつ行つのですか？

M 毎月第4金曜日の夜に行います。(二月は二十九日。下記参照)コーヒースービスのひとつでもあります。参加者同士の名刺交換会のようなものも考えています。

K このサロントークで大事にしていることは何ですか。

M 先ず楽しい、ということ。楽しくなければ長続きしません。また、他の人が認めてくれ、私も参加したいという気持ち起きるように、ちよっとオシヤレとか、かっこよさも必要。そして、ためになるということが大事だと思います。

M とところで「繭ホール」っていい言葉ですね。

K はい、上田情報ライブラリーが



サロントークの打ち合わせをするスタッフ

くられたとき、信濃デッサン館・無言館々主の窪島さんから提案いただいた、「お蚕(かいこ)さんが糸を紡ぐように言葉の文化を紡ぎたい」という思いとライブラリーの思いが一致し、「ことばの繭ホール」という名前が生まれました。

K ありがとうございます。最後にもう一言お願いします。

M 何年も続く長期番組に育てていきたいので、皆さんのご協力宜しくお願いします。

1月のゲストは、私達市民にとってとてもゆかりのある真田家の末裔の、**真田幸光(ゆきみつ)氏**です。

繭ホール・サロントーク

毎月第4金曜日
 (1月29日、2月26日、3月26日)
 PM6:00開場
 時間 PM6:30~PM8:00
 場所 ことばの繭ホール(上田情報ライブラリー)
 参加費 1人500円で1ドリンク付き。
 定員 40名
 受付開始 第一回の1月は1月10日から。
 申し込み 上田情報ライブラリー TEL 0268-29-0210
 お問い合わせ
 上田図書館倶楽部 TEL/FAX 0268-25-3115
 詳細は広報うた、図書館倶楽部ホームページ
 (<http://ueda.zuku.jp>) をご覧下さい。

『ことばの繭ホール』

サロントークの会場は、フワッと優しく、とても暖かい名前…それは、駅前ビルパレオ四階にある情報ライブラリー入口にある『ことばの繭ホール』。決して広いとはいえないけれど、大きな窓からまず目に飛び込むのは上田駅。更にその先は、上田駅南側の景色が一望出来ます。

ホールは、静かで落ち着いている反面、雰囲気はパアツと明るい感じが広がっています。その横にはとても美味しいコーヒーを入れてくれる小さな喫茶店があります。

是非、足を運んで頂きたいと思います。

倶楽部員に聞く

上田図書館倶楽部と
 共に歩んだ日々

事務局 山本美都子

倶楽部に所属してすでに六年半が過ぎました。始まりは、友人から誘われて上田図書館で開かれていた事務局会議へ参加したことでした。それは、冬真只中の二〇〇三年の二月、すでに倶楽部の名前も決まり、集まった男女十数人の方々の話合いの中に、これから進むべき道への熱意が感じられました。三月の第一回総会后、喫茶部会、文化部会に所属しました。「ブックカフェつじ」と名づけた喫茶では、部員がコーヒーの入れ方をセミナーで練習して今も基本に忠実に提供させていただいております。

文化部会は、繭ホールでのNHKアナウンサー青木裕子さんから始まった朗読会も来年は10アニバーサリーとなります。岩崎信子さんの朗読も第六回を迎えました。

コンサートも地元の音楽家を中心に毎回新しい方を迎えて、愛好者に楽しんでいただいています。常に先々までの各イベントの予定を立て、コーディネートすることは悩みの種ですが、出演される方々との出会い、交わりは貴重な経験となり、良い思い出となっております。そして、参加者の数に一喜一憂して迎えた当日は、一緒に楽しんで感動を分かち合うひとときとなって幸せになります。

至らない者ですが、途中から事務局の一員となつて、税務署関係や市役所、県など対外的な手続き、書類作り等、未知の事柄にも手探りで歩んできました。

部員の皆様のお力とお支えでここまで来られたことを感謝いたします。

NPO法人上田図書館倶楽部の未来が一層輝けるように、続けて行くことを祈っております。

「市民協働による 新たな図書館サービスの創造」 に一緒に参加しませんか？

図書館は今、図書やデジタル情報によって暮らしやビジネスに必要な情報を得、自立した知見をもつための「地域の情報拠点」、「生涯学習拠点」だといわれています。このような新たな図書館サービスの実現を目指して、NPO 法人上田図書館倶楽部は上田情報ライブラリーと協働してさまざまな活動を続けています。

今年は、「市民協働による新たな図書館サービスの創造」という事業計画が図書館振興財団の助成事業に採択され、上田情報ライブラリーと共にこれらの事業を推進しています。

この事業を通して、図書館の「地域の情報拠点」、「生涯学習拠点」

としてのサービスを充実させ、図書館職員や図書館倶楽部員の知識や技術の向上を目指します。また、市民のなかに中間指導者を養成します。さらには、図書館サービスに市民が主体的に参加すること

によって、市民の力と意欲と声を図書館サービスに活かし、市民協働による新しい図書館サービスを作り上げたいと思います。

図書館に関心をお持ちの方、調査研究や文

化活動をしたい、経験や技能を活かしたい、何か新しいことにチャレンジしてみたいとお考えの方、ぜひ一緒に活動してみませんか。皆様のご参加をお待ちしています！

市民が支える図書館づくり (広報活動・人材育成)	広報活動 (広報誌と一く発行)	倶楽部の紹介と 図書館の利用促進	繭ホール サロントーク	豊かな文化 の交流
市民の生活支援サービスと 情報サービス	サーチャー 試験のための 勉強会	情報サービス技術 のスキルアップ	絵本読み聞 かせ人材 養成講座	中間指導 者の養成
千曲川地域 文化の創造 と発信	情報調べ の標準的な 手順作り	生活支援・地域 課題解決支援	「上田市誌」 等の目次の データ化	図書館資料の 利用価値アップ
市民交流の場 の提供	情報検索講座	情報リテラシー教育	執筆編集講座	図書館による「書く」ための支援
	調べもの学習講座	図書館を使って調べる楽しさを広げる		
	千曲川地域の文学講座	地域文学の紹介と振興		
	コンサート ・朗読会等	市民交流の場、地域の活動 グループに発表の場を提供		

記録・草創期の 上田図書館倶楽部

宮下明彦

第一回 上田図書館倶楽部創設前夜のころ

仮称・情報ライブラリーの基本計画が母袋市長に報告、決定されたのは、平成十四年十二月二十五日であった。この基本計画はその年の秋から数回に及んだ庁内検討会議を経てまとめられたものだが、その運営計画中に「サービスを高いレベルで維持していくため、専門性が高く意欲的なNPO、ボランティアと市が連携、協働して運営に当る」の一文が盛り込まれた。

平成十五年度に入ると、市立図書館に準備室が設置され、予算も措置され、上田情報ライブラリーがようやく建設の運びとなった。その中で、実際にNPOをどう立ち上げていくか模索が始まった。

その年八月に名称が上田情報ライブラリーと正式に決定された頃から、マスコミにも何回か取りあげられ、文庫・新書や郷土資料を市民に寄贈を呼びかけると多くの方が応じてくれ、市民の上田情報ライブラリーへの関心は大変盛り上がりつつあった。

そんな中、利用者からの要望に応える形で始まった「図書館学習会」は、夕方の時間帯にも拘わらず毎回七十名ほどの受講者で市立図書館

二階会議室は溢れた。図書館への市民の高い参加意欲を感じた私はNPO・市民団体の設立を確信した。

秋になると図書館協議会関係者、学習会参加者、図書館で働きたい人、つくしの会・山なみ・上田社会教育大学関係者はじめ実に多くの方々が集まって来るようになり、熱気さえ感じられた。その中には名前も顔も始めてという方が大勢いたが、それらの皆さんが参加して市民団体設立のための準備会が、十一月から十二月にかけて七回も重ねられた。その途中でも多くの市民が参加してきたが、いつの間にか顔を見られなくなった人もいた。

十二月に入ると、市民団体の会則、組織、事業計画、予算等が固まり、二十一日の準備会で検討の結果、名称は「上田図書館倶楽部」と内定し、開館記念事業も検討され、年末には設立総会に向けて協議が行われた。そして平成十六年一月八日付で、「市民協働の図書館づくり」上田図書館倶楽部」設立総会開催通知が發送され、設立趣意書とともに発起人及び賛同者三十二名の連名で市民に上田図書館倶楽部への参加が呼びかけられた。

(続く)

